

インターンシップ報告書

(KB1047BA)



派遣国	ベトナム社会主義共和国	派遣都市	バンメート
受入機関	Niconicoyasai, Ltd.		
受入機関概要 (事業内容等)	ベトナム各地の農場での有機野菜の生産・出荷 ハノイにおける直売形式の販売		
派遣期間	2016年9月6日 ~ 2017年1月14日		
所属先	同志社大学		
所属部署	法学部	性別	女性

インターンシップ内容 (概略)	バンメート農場での出荷作業・農作業の手伝い、受入機関の各地の農場視察、販売店舗の視察、直売会運営の手伝い、バンメート周辺の農家の生活調査
--------------------	--

1. 自身の目標と達成状況

目標	<ul style="list-style-type: none"> ①受入機関のあらゆる業務を経験し、NICO NICO YASAIのビジネスモデルキャンパスを作成する。 ②農業を通じた企業と地域コミュニティとの繋がりを学び、双方の利益を理解する。 ③受入機関スタッフや周辺の農家にインタビューを行い、経営方法や生活の現状を学ぶ。 ④農業による国家開発・国際協力のための自分なりの道筋をレポートにまとめる。
達成状況	<p>①達成した。受入機関スタッフからもたくさん話を聞き、受入機関だからこそできる顧客との繋がりと価値提案を深く理解することができた。②ある程度達成した。受入機関では直営農場の他にも現地の農家と連携した有機野菜の生産を行っており、それによって地域に根ざした経営が行われている。③達成した。受入機関スタッフ・連携農家・農業を学ぶ大学生など様々な立場の人にインタビューすることで、野菜市場の仕組みや農家の生活の様子を理解できた。④達成できなかった。目標があまりにも壮大すぎたため、これについてはこの経験を生かして今後も頑張りたい。</p>

2. インターンシップで直面した課題・困難、その原因とどのように対処したか

課題	<ul style="list-style-type: none"> ①初めの2ヶ月で生産から販売までの工程をある程度経験したが、範囲が広すぎて次にどこに視点をあてた活動をすれば良いのか分からなくなった。 ②農家は日々何に困り、それをどう改善したいのかを自分で汲み取るのが難しかった。 ③インタビューでは通訳者を通じたため、聞きたい情報をうまく得られないこともあった。
対処方法	<p>①2ヶ月で学んだ概要をノートにまとめた。それを踏まえて、ベトナム農業の発展のために、まずは農業を実際に行う農家の生活が第一であると考え、後半の2ヶ月は農家の生活に焦点を当てて活動した。②できるだけ農家の人々と共に、同じ生活・同じ作業をすることで、農家の視点から物事を考えた。③「自分は何をしにここにいるのか」「何を聞くためにインタビューをするのか」を通訳者にも分かりやすく説明した他、普段から些細なことでも疑問は全て解決することを心がけた。</p>



お世話になった農場のスタッフ



日本語学校の生徒との交流

3. インターンシップを通じて向上した/しなかった国際的な事業展開を担う際に必要となる能力、スキル、知識およびその理由

向上した もの	<p>①行動力、積極性: 基本的な農作業・出荷作業以外は自由な時間が多かったため、その時間を活用して自分の興味に基づいた訪問やインタビューなどを積極的に行った。</p> <p>②現地語力(ベトナム語): 難しい単語は分からなくても、事前研修で得たベトナム語の知識を駆使し、知っている簡単な単語を使って仕事への疑問や意見をぶつけることができた。</p> <p>③自分の考えをまとめる力: 生産から販売まで、幅広い意味での農業に携わることができたため、そこで得た多くの学びをまとめることにより、自分に落とし込むことができた。</p> <p>④人脈力: 言葉が通じない人へも人脈を広げ、それを学びに繋げることができた。</p>
向上しな かったも の	<p>①専門的な知識: ほとんどのスタッフとの会話はベトナム語のみだったため、特に農作業に関しては奥深い質問はできず、見よう見まねで手伝いをするが多かった。</p> <p>②プレゼンテーション能力: 自分の意見をその場で言ったり、まとめてレポートを書く作業などはあったが、大人数の前で発表する機会はあまりなかった。</p> <p>③英語力: 主に農村部で過ごしたため、周囲に英語を話す人がいなかった。</p>

4. 今回の経験、成果を今後の自身の業務、所属先の海外展開促進に具体的にどう活かせるか(社会人所属あり)、または今後の就職、キャリア開発に具体的にどう活かせるか(学生・社会人所属なし)

インターンシップに参加する前は、食の分野における国際協力がしたいという漠然な目標しか抱いていなかった。しかし今回の経験により、農業を社会的な視点から見つめることで、「農家さんの生活を向上させる手助けがしたい」という具体的なゴールを定めることができた。特にベトナムでは、農業は国の産業を支える大きな基盤である。しかしそれがどれだけ重要でも、実際に農業を行う農家の生活が保障されていなければ、農業を発展させていくことはできない。今回農家の人々と生活を共にすることで、自分自身が感じた疑問に対する答えに加え、彼らが抱えている課題や問題、仕事への熱意を知ることができた。また、自分がこれまで触れたことのなかったビジネスの世界も、誰かの生活を支え、自分の夢を叶えることができる場でもあることを学んだ。これからは、形態が企業であれNGOであれ、農家の仕事をさらに充実させ、彼らが抱える問題を少しでも解決できる手助けをしたい。そうすることが将来地域活性化や国の産業の発展に繋がり、以前から思い描いていた「食を通じた国際協力」にも繋げることができると考えている。

5. 受入機関のコメント

元気に明るく積極的にインターンシップに取り組み、スタッフ達とも仲良く円満に過ごしていた。ベトナムの農村という日本の常識とは異なる状況の中でも柔軟に対応し、気持ちが崩れることがなかった。一時期、ホームシックにもなったようだが、うまく気持ちを立て直した。体感した情報を文章にまとめる能力は抜群で、広報としてその能力を活かしてもらった。ハノイ国家大学での「生物多様性を超えて」のセミナーでは、突然の指名にも関わらず、舞台上多くの学生・先生達を前にして、物怖じせずに自分の考えを発表したことには大変感心した。一緒に働いた農場のスタッフや農村の人々の「顔」、ベトナムの農家・農業・農村という感得を、今後の大学での学びや、将来の夢への糧としてもらえると嬉しく思う。



畝づくり



毎日の出荷作業



野菜の直売会